

# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2018 (平成 30) 年 第 21 週 (5 月 21 日～5 月 27 日)

## 今週のコメント

～A群溶血性レンサ球菌咽頭炎～手洗い、うがいが重要

### 定点把握感染症

「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱ともに増加」

第 21 週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 3,101 例であり、前週比 6.9%増であった。定点あたり報告数の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、突発性発しん、水痘の順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 9.4、3.1、1.0、0.6、0.6 であった。

感染性胃腸炎は前週比 5%増の 1,843 例で、南河内 18.3、北河内 12.4、中河内 11.6、泉州・大阪市北部 9.3 である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 4%増の 612 例で、南河内 5.0、大阪市南部 3.9、北河内 3.4、泉州 3.2、豊能・中河内 3.1 であった。

咽頭結膜熱は 18%増の 200 例で、中河内・大阪市東部 1.8、泉州・大阪市南部 1.1、三島 1.0 である。

水痘は 44%増の 125 例で、南河内 1.3、泉州 0.9、北河内・中河内・大阪市西部・大阪市東部で 0.7 であった。

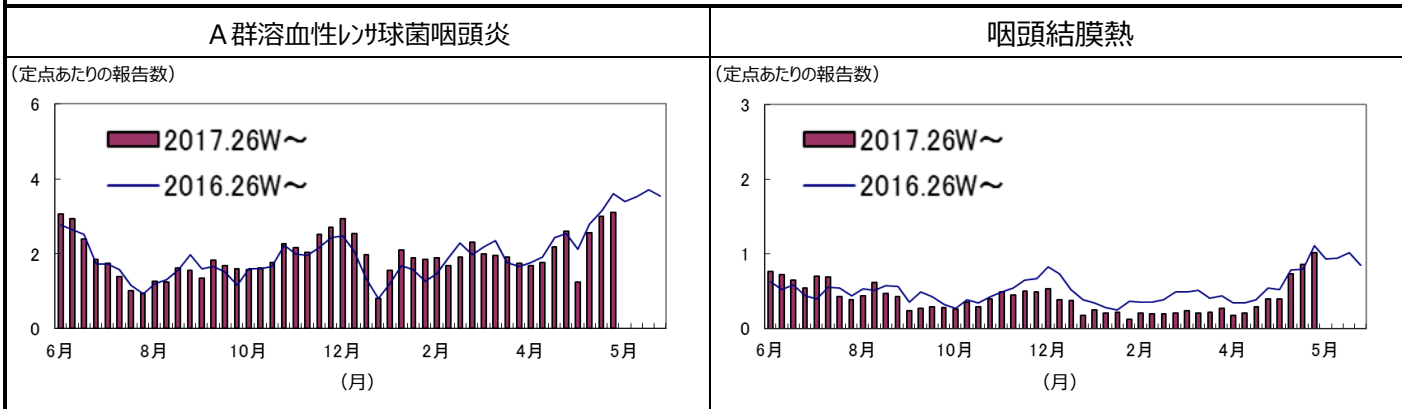


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向 (2018 (平成 30)年 第 21 週 5 月 21 日-5 月 27 日)

第 21 週 の順位	第 20 週 の順位	感染症	2018 年 第 21 週 の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017 年 第 21 週 の 定点あたり 報告数	2018 年 第 21 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	9.4	5%増	8.1	1 歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.1	4%増	3.6	5 歳_14%
3	3	咽頭結膜熱	1.0	18%増	1.1	1 歳_44%
4	4	突発性発しん	0.6	5%増	0.6	1 歳_55%
5	5	水痘	0.6	44%増	0.4	10-14 歳_17%

## 第 21 週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

### 全数把握感染症

#### 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものは O(オー)157、O26、O111 がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5 日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる（出血性大腸炎）。発熱は軽度で、多くは 37℃ 台である。有症者の 6-7% では、発症数日後から 2 週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

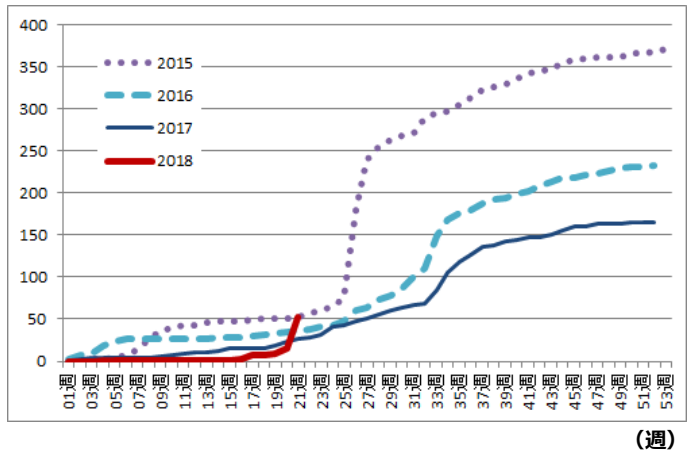


表 2. 大阪府全数報告数 ( 2018(平成 30)年 第 21 週 5 月 21 日 - 5 月 27 日 )

\* ) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	<b>腸管出血性大腸菌感染症</b>	<b>38</b>	1						37	53
4 類感染症	A 型肝炎	2				1			1	16
	レジオネラ症 (肺炎型)	3				1			2	24
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢	1	1							33
	後天性免疫不全症候群	3							3	53
	侵襲性肺炎球菌感染症	5				1	1	1	2	141
	水痘 (入院例)	1			1					9
	梅毒	11	1	1	2	1	1		5	445
百日咳	8	2	1		1	2		2	120	
結核 (2018 年 4 月分)	結核 新登録患者数 : 149 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 49 名) (府内累積報告数 576 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 220 名)									
麻しん、風しん	報告はありません									

(2018 年 5 月 29 日 集計分)